

三重県における結核登録患者の入院・ 治療状況からみた結核対策の課題

オオクマ カズユキ フクダ ミワ マツムラ ヨシハル ナカヤマ オサム
大熊 和行* 福田 美和* 松村 義晴* 中山 治*

目的 三重県における結核登録患者に対する医療の適正化や結核病床の適正配置等を図るため、結核病床を有する病院に入院していた結核登録患者の入院・治療状況からみた対策の課題を検討した。

方法 調査は、県内9保健所が管理する結核登録票を情報源として、1999年1月1日から2001年12月31日の3か年に県内の結核病床を有する病院に入院していた943人の結核登録患者を対象に入院・治療状況の調査を行った。

結果 発病すると他者に感染させる恐れの高い職業に就いている患者数は85人、登録時に年齢を問わず発病しやすい状況にあった患者数は73人で、これらを合わせた158人(16.8%)は、胸部X線健診の確実な実施を強化すべき職業または生活状況として把握することができた。発病危険因子を有する者は641人で、その内訳は結核の既往153人(23.9%)、糖尿病114人(17.8%)、脳卒中・痴呆85人(13.3%)、慢性肝障害67人(10.5%)、結核患者との接触65人(10.1%)等であり、2000年度に厚生労働省が実施した結核緊急実態調査とはかなり異なっていた傾向を示した。INH 1.0 mcg/mL および RFP 50 mcg/mL の2剤に耐性のある多剤耐性菌の出現割合は5.7%であり、多剤耐性菌の出現頻度が相当上昇していることが推測された。初回治療薬剤の状況をみると、4剤併用療法のうちとくにINH・RFP・SM・PZA併用療法が着実に普及していたが、それと比較すると入院期間の明らかな短縮傾向は認められなかった。調査対象期間内に退院した患者のうち治療経過中の自己中断が3.1%あり、結核患者に対するDOTS(直接服薬確認療法)の推進・強化の重要性が示唆された。また、毎日の入院患者数の推移から、三重県全体での必要結核病床数は、最大120床程度確保すれば十分であることがうかがわれた。

結論 予防対策として、発病すると他者に感染させる恐れの高い職業、登録時に年齢を問わず発病しやすい生活状況、発病危険因子を踏まえた健診の重要性を確認することができた。また、医療対策として、肝機能検査の適正実施のもとにPZAを含む短期化学療法の普及を図ることや、DOTSの推進・強化の重要性が示唆された。

Key words : 結核, 発病危険因子, 入院期間, 薬剤耐性, 短期化学療法, 結核病床

* 三重県科学技術振興センター保健環境研究部
連絡先: 〒512-1211 三重県四日市市桜町3690-1
三重県科学技術振興センター保健環境研究部
大熊和行